

2017年度 認定 NPO 法人キーパーソン 21 事業報告

【キーパーソン21の活動目的】

ひとりでも多くの子どもたちに将来について考えるきっかけを持たせ、視野を広げ社会へ旅立つことへの自覚と自立心を促し、夢と勇気をもって、生き生きと自己実現へ向かってすすめる喜びを知ってもらうこと。

【2017年度の目標】

1. 「わくわくエンジン」を軸とするキーパーソン21の考え方や概念を、子どもたちを取り巻く社会的関係者(家庭、小中高校、大学、塾、行政、企業、地域の学習支援などを運営する団体等)に向けて広く展開する。
2. キーパーソン21の活動を全国に普及させ、各地域で実施するための支部／本部制度を整備構築する。
3. キーパーソン21の活動の社会的価値を効果的に伝えるための広報活動を強化する。

I. 小中高校生に対するキャリアプログラムの事業実施

収益金額 : 13, 499, 713 費用金額 : 6, 570, 196

1. プログラム実施事業

実施対象総数: 4,016 名
 内訳 川崎本部による実施対象者数: 3,454 名
 い 川崎本部以外の主催による実施対象者数: 562 名

◆ 川崎本部によるプログラム実施

川崎本部による実施対象総数: 3,454 名
 内訳 企業協賛・行政連携・会員による実施: 1,655 名
 コカ・コーラ 5by20: 1,726 名
 GAP 店舗での実施: 73 名

1-1 学校における実施

東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県内の高校 6 校、中学校 10 校、小学校 3 校に対しプログラムを展開、計 1,655 名の生徒・児童に「夢！自分！発見プログラム」や各学校の課題やニーズに合わせたプログラムを実施した。トピックスは以下の通りである。

- 20名の大学生会員が1校 509名の高校生を対象としたプログラムを実施した。金沢からの1名、関西からの2名を含む17名の大学生が講演した。

- 川崎市内の定時制高校 1 校の生徒 85 名を対象に「個別アクションプログラム」を 2 回実施した。
- 他に、川崎市内の中学校:2 校 264 名、並びに静岡市内の定時制高校:1 校 12 名に実施した

1-2 企業との連携によるもの

- 日本コカ・コーラ株式会社と「5by20 女子起業！わくわくプロジェクト」として 5 つの高校、3 つの大学、合計 8 校で開催した。受講者数は 1,726 名、うち 16 歳以上の女子は 1,182 名であった。
- ギャップジャパン株式会社と 2 校での学校実施を展開、その後店舗との連携で「わくわく拡散プロジェクト」を行った。
 - ◇ ラゾーナ川崎プラザ店 8/10 従業員研修、8/25「夏休み！お仕事発見！ゲーム」44 名に実施。
 - ◇ 心齋橋店 10/1 従業員研修、10/15「わくわく！お仕事発見！ゲーム」29 名に実施。

1-3 行政との協働によるもの

- 東京都より「社会的・職業的自立事業」を受託し、東京都教育庁と連携して都立高校定時制の生徒 43 名を対象に、プログラムを延べ 2 校で実施した。

1-4 個人への実施

「進路決定サポートプログラム solo-solo」を、2 家族を対象に行った。

◆ 川崎本部以外によるプログラム実施

川崎本部以外のプログラム実施は、総計 562 名に対して行われた。

1-5 地域支部による実施

北海道、新潟、関西、東京支部により、5 校・1 プロジェクト、443 名にプログラムを実施した。

- 関西： 1 プロジェクト 28 名
- 北海道： 1 校 74 名
- 新潟： 1 校 167 名
- 東京： 3 校 174 名

1-6 パートナーによる実施

2017 年度にパートナーシップ契約を締結した法人により、およそ 30 名にプログラムを実施した。

- クリップアカデミー： 9 名
- くさつ未来プロジェクト： 21 名 (2 プロジェクト)

1-7 PTA による実施

クアルコムジャパンからの寄付により、PTA が主体的にプログラム実施を行うモデルをつくり、有明小学校の保護者 21 名が小学 6 年生 3 クラス 89 名を対象に実施した。

Ⅱ. キャリアプログラムの普及啓発事業

収益金額 : 6, 877, 952

費用金額 : 5, 436, 942

1. プログラム開発

- 高校生・大学生を対象に、女性起業家を題材にした Q&A から、わくわくエンジンを発見するプログラムを開発、8校で実行した。(日本コカ・コーラの 5By20 の活動)
- 教員、学校の長、市町村などの長といった大人たちのわくわくエンジンを、公開の場で発見するプログラムを開発し、実施した。(川崎高校、鳥取大山町、金沢大学など)
- 山村学園でのイベントに見られるような、大学生による講演プログラムを汎用性のあるものにするための叩き台の作成はまだ完成に及ばず、途中の段階である。
- 大学のクラスを対象に、「すきなものビンゴ&お仕事マップ」を編集した「90分短縮版わくわくエンジン発見プログラム」を作成し実施した。
- 親子を対象とするプログラムとしてトライし関西チームによって実行した。
- 経済的困難を抱えた中学生や定時制高校の生徒の、進路選択や面接までのプログラム整備は半ばで、2018年度へ持ち越しとなった。

2. わくわくナビゲーターの養成(正会員、学生会員、パートナー会員対象)

2-1 わくわくナビゲーター養成講座(会員向)

- わくナビ養成講座の開催回数は17回で、144名の参集があった。前年2016年度の10回、144名を上回り、2016年度96名の1.5倍となった。
- すきなものビンゴ&お仕事マップ
4/22・23, 6/24・25, 7/29・30(関西), 9/10(北海道), 10/28・29, 11/25・26(新潟), 1/27, 2/17・18, 2/18(北海道), 3/26(金沢) ⇒ 10回開催(2016年度4回)
認定級: すきなものビンゴ&お仕事マップ 1級2名、2級68名、3級25名、4級4名 ⇒ 計99名
- 個別アクションプログラム
5/13・14, 7/8・9, 9/9・10(関西), 12/2・3, 3/3・4 ⇒ 5回開催(2016年度3回)
認定級: 2級25名、3級7名 ⇒ 計32名
- コミュニケーションゲーム
6/3・4, 9/16・23 ⇒ 2回開催(2016年度3回)
認定級: 1級1名、2級7名、3級4名、4級1名 ⇒ 計13名
認定委員会は、10月1日に開催した。

2-2 パートナー向け養成講座

パートナーに対して計4回、養成講座を開催した。

- すきなものビンゴ&お仕事マップ
10/21・22(耳をすませば), 10/25・30, 11/1(クリップアカデミー), 12/16・17(くさつ未来プロジェクト), 3/26(金沢大学)
認定級: すきなものビンゴ&お仕事マップ 2級40名、3級4名

2-3 わくわくナビゲーターの養成（企業研修）

協賛協力企業社員に対して、キーパーソン21の理念、プログラムの理解、および学校実施参加に必要なスキル習得を目的としたプログラム研修を開催した。

6社に対し10回の開催となった。（2016年度9社16回開催）。

- 事業実施期間: 2017年4月～2018年3月
- 開催回数: 6社(2016年度9社)10回(2016年度16回)約90名
- プログラム/企業の内訳:
 - ◇ コミュニケーションゲーム5回(2016年度9回):
カシオ計算機、GAP ジャパン、スカパーJSAT（2016年度はコカ・コーラ、JCB）
 - ◇ すきなもののビンゴ&お仕事マップ4回(2016年度6回):
カシオ計算機、エヌアセット、WOWOW、スカパーJSAT（2016年度はクアルコムジャパン）
 - ◇ かつこいい大人ニュース1回(2016年度2回):NTT データシステム技術

3. 地域活動支援事業（わくわく拡散プロジェクト）

3-1 支部連携

今年度は支部構築のための準備期間と位置付け、整備を図った。各 SNS を用いての情報共有を心掛けた。地域支部の活動状況は以下のとおりである。

- 北海道: 説明会3回、講座開催2回、学校実施1回。
SNSでの情報共有、定例の話し合いを実施。
- 関西: 講座開催2回、地域プログラム実施1回、講演&ワーク1回、卓話1回、
GAP わくわく拡散プロジェクトサポート、大学生(3名)講演プロジェクトサポート。
FBグループで情報共有。
- 新潟: 講座開催1回、学校実施1回。FBグループで情報共有。
- 北関東: 説明会1回。FBグループで情報共有、定例の話し合いを実施。
- 東京: 学校実施3回
- 静岡: 説明会1回、学校実施1回(学校実施については本部による開催をサポート)
- 鳥取: 講演&ワーク1回

3-2 パートナーシップ提携

4月下旬、yahoo!ニュースに団体記事が掲載されたことをきっかけに、各新聞各紙、TV、雑誌等でとりあげられることとなり、全国からのパートナー提携の問い合わせが殺到し、4件の契約をもたらした。

- クリップアカデミー(塾): 塾教師を対象に講座開催。
- くさつ未来プロジェクト: 会員対象に講座を地域で開催。講演2回、行政機関の首長訪問
- 耳をすませば(NPO): 地域の学生を対象に講座開催。
- 石川学生定着推進協議会(事務局:金沢大学): 地域で講座を開催。2018年度提携へ。

3-3 モデル構築

江東区の小学校PTAと協働で、プログラムのPTAモデルを構築した。

昨年1月のキャリア教育アワード2016受賞を契機に、有明小学校PTA代表でもあるキーパーソン21

会員が中心となり、学校および保護者にキーパーソン 21 キャリア教育プログラムの情報提供を行った。更に、2017 年度中のプログラムの学校実施をめざし、以下のように計画を立案、実行した。

- ① 提案・説明：(春～夏) 校長に提言、6 年生学級委員に協力依頼
- ② 講演：(9/3) 朝山代表による講演により概念理解促進【受講 72 名】
- ③ 研修：(10/29) プログラム体験およびわくわくエンジン引出しトレーニング【受講 23 名】
- ④ 実施：(11/16) 授業 2 コマ「すきなものビンゴ & お仕事マップ」【授業サポーター 21 名】
- ⑤ 展開：(3 月卒業前) 6 年生総合的授業 将来を考える「12 才のぼく・わたし」で活用

4. 広報・コミュニケーション活動

4-1 説明会の開催

- 12 回の説明会を開催した。(4 月、5 月 6 月各 2 回、7 月、9 月、10 月、11 月、1 月、2 月、3 月)
- 26 名が新規会員として登録された。
- 説明会の場を活用してエバンジェリスト(伝道師)養成を開始した。エバンジェリスト候補者として、現在 16 名ほどが見込まれる。

4-2 イベントの開催

AKP イベントチームを中心に、3 月「第三回わくわく学生創出会議」を開催、139 名が参加した。午前の部は、大学生の自主運営によって講演とグループディスカッションを行い、午後は株式会社ユーグレナの出雲充氏、ランスタッド株式会社の志水静香氏、東京都市大学の小板橋孝雄氏登壇によるパネルディスカッションを行った。

4-3 WEB での取り組み

各地域の課題を問題として取り組む方々やプログラムの実施主体となることを希望する方々に、考え方や解決ノウハウを知ってもらえるように広報する手段として、Facebook やブログなどを活用し活動状況の日常的な発信を心掛けた。今期の掲載記事数は以下のとおりである。

- ホームページの「わくわくエンジンブログ」「代表朝山ブログ」計 13 件
- 養成講座・説明会告知を含むお知らせ掲載 29 件
- Facebook での学校実施(企業協賛含む)報告や養成講座報告を随時投稿

また、ホームページ上で PDF ファイルを埋め込み表示したことで新聞記事のダウンロードを可能にした。

4-4 紙媒体/出版

会員が経営する出版社、高陵社書店から 2018 年 3 月に「ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけ方」を出版した。AKP で「出版タイトル検討チーム」として集まったメンバーが、校正に取り組み「校正チーム」となり、さらには「プロモーションチーム」として動き、キーパーソン 21 の出版物として会員みんなで作ったものとなった。

4-5 講演・セミナー・研修

全国 20 カ所において大人を対象とした講演、セミナー、研修を行った。

これまで以上に全国各地での開催となり、キーパーソン 21 の思いと活動を伝える機会となった。

- 4/16 関西ロータリークラブ
- 5/11 川崎北間税会
- 6/14 川崎商工会議所女性会
- 7/6 わだち大泉学園職員向けセミナー
- 7/23 土浦社会福祉協議会
- 7/30 富山県魚津市企画政策課
- 8/8 暮らしを育てる農園
- 8/24 渋谷区教員研修
- 9/3 有明小学校 PTA 講演セミナー
- 9/4 長野県伊那市立西箕輪小中 PTA
- 9/27 川崎北ロータリークラブ
- 11/26 府中いきいきサークル
- 12/5 草津倫理法人会
- 12/5 滋賀県四葉クローバー@こぼと乳児院
- 12/15 静岡市立定時制高校教員研修
- 1/11 経済産業省・文部科学省・厚生労働省連携シンポジウム
- 2/7 川崎高校定時制教員わくわくエンジン発見
- 2/15 鳥取県大山町
- 3/3 沖縄子どもの居場所ボランティアセンター
- 3/26 石川県学生定着推進協議会 職員研修

4-6 企業・行政・大学・NPO 等、諸団体との連携のコミュニケーション

港区、渋谷区、江東区、川崎市内の学校支援のみならず、全国へ向けて普及活動の理解をいただけるようコミュニケーションを継続した。

協賛企業： カシオ計算機株式会社、ギャップジャパン株式会社、株式会社エヌアセット、株式会社 WOWOW、クアルコムジャパン株式会社、スカパーJSAT株式会社、NTTデータシステム技術株式会社、NKKシームレス鋼管株式会社、富士ゼロックス株式会社

法人会員： 株式会社アルバイトタイムス、東京JAPAN税理士法人、株式会社カヤバ、富士通株式会社、株式会社言語生活サポートセンター、株式会社SUBARU、株式会社 tyotto、啐啄塾、NPO法人くさつ未来プロジェクト、クリップアカデミー株式会社

全国普及に向けた寄付や協働プロジェクトのパートナーとして：

ギャップジャパン株式会社、日本コカ・コーラ株式会社、クアルコムジャパン株式会社

Ⅲ. 社会参加支援事業

収益金額 : 9, 238, 640

費用金額 : 8, 808, 573

川崎市における地域支援

- 川崎市委託事業:学習支援・居場所づくり事業(中原”わくわく”学習会、通称:なかわく)
2017 年度から中丸子教室と新城教室の2箇所事業を実施することとなった。両教室合計で、子どもたち 26 名(中 3:12 名、中 2:8 名、中 1:6 名)に対し、学習サポーター 19 名(うち学生:12 名)、スタッフ 3 名が、個別学習支援を行った。子どもたちの高校進学はもちろんのこと、一人ひとりの個性を大切に将来へ希望を持って進もうとする意欲を醸成した。
実績： 開催日数:中丸子教室(火・木)、新城教室(水・金)で各 82 日(2H/日)、特別開室:8 日(3H) 高校へ全員合格した。→ 公立全日制:6 人、私立全日制:4 名、公立定時制:2 名
学習支援→ 成績向上に貢献、「勉強できる場所づくり」の意義を再認した。
居場所づくり→ 「子ども同士、子どもとサポーターが仲良く過ごせる場所」として機能する。
- 寄付による自主事業:「学習支援・居場所づくり事業」(通称:こすわく)
生活保護から外れなかわく対象外の家庭や、転居により中原区在住でなくなった中学生、高校生

の学習支援と居場所つくりを継続した。

なかわく+塾の希望が金銭的に困難でなかわくと併用で通う生徒や、社会人(22歳支援校を卒業)が高校卒業の資格が欲しいとの希望で来室することになった。

中学3年生5名は、全員第一志望高校へ合格できた。

また、昨年度、高校受験を終えた生徒は、高校入学後も1年間こすわくに通い続けた。

- こすわく英会話(NKKシームレス鋼管による支援)

ネイティブスピーカーが講師を務め、年間30回にわたって、経済的困難を伴う中高生を対象に、英語をとおして世界の異文化を知る学びの場の提供を行った。

- 川崎市委託事業「寺子屋」

キーパーソン21として実質的に2年度目となる寺子屋事業を川崎市教育委員会より受託し、中原区今井小学校において実施した。

【学習支援】6月から3月まで給食のある水曜日の午後、3年生以上の児童を対象とした。

全26回のうち13回を宿題やプリントを中心とした「基礎学習」グループ、残りの13回を「国際性と多様性の学び」グループの時間として実施。参加児童数は前者が23名、後者が12名であった。

「基礎学習」においては、校区内の地域住民が寺子屋先生として参画くださり、教科の学びだけでなく、地域の大人と児童が触れ合える有用な時間を形成した。「国際性と多様性の学び」では、多様な文化や価値観に触れ、学び、認めることを目的にコンテンツを準備し児童に提供した。

【体験学習】6月17日を皮切りに計6回、土曜日に今井小学校体育館を借り受けて、1~6年生児童とその保護者を対象とした。児童とその保護者が一緒に体験することを通じ、家庭では見せることの無い児童の一面を保護者が認識する場として、毎回高い評価を得ることができた。最終回は前年度と同様、演劇「グレイッシュとモモ」公演を実現させ、今井小関係者だけでなく地域住民や障がい者施設入所者なども共に観劇することができた。

- 神奈川県委託事業 男女参画課協働事業 ライフキャリア教育出前講座(通称:かなわく)

神奈川県人権男女共同参画課からの委託を受け、性別役割分担意識にとらわれず自分らしい豊かな人生をデザインする力を育成するためのライフキャリア教育を広げることを目的に、県内の3高校に対してモデル的に出前講座を実施した。

9/28 大船高等学校(399名)、11/10 藤沢工科高等学校(210名)、2/6 相原高等学校(77名)

合計686名の高校生対象。アンケートでは全体で70%以上が「大いに、または多少参考になった」と応え、授業時間が60分以内と短いながらも生徒たちに新たな視点と気づきを提供できた。

定性コメントには、

- ・男女関係なく、仕事を選ぶ自由があると知った

- ・あまり将来のことを考えていなかったが、考えてみようと思えた

- ・自分の新しい一面を知れた

などがあった。

IV. その他目的達成のために必要な事業

収益金額 : 1, 376, 676

費用金額 : 677, 615

1. 企業との連携

• 博報堂 OPEN-CAMP

博報堂 CSR のプログラム OPEN-CAMP の運営サポートやアドバイスを実施した。

OPEN-CAMP6 回、保護者座談会 1 回、中高生にもっと OPEN-CAMP を広げる策として新企画保護者向け OPEN-CAMP を企画、運営のアドバイスをを行った。

また博報堂生活総合研究所の研究対象校として広尾中学校を紹介し、実施サポートを行った。

2. 会員活動の充実と促進

会員のもつ知見や発想を活かし、キーパーソン21の活動をサポートしていくための活動を行った。

A愛着とK関係性を深めるPプロジェクトとして、AKPと名付けている。

既存チーム活動の充実と新チームの創設による活動の活発化を図った。

① ファンドチーム

こすわく運営を目的とした寄付に加えて、来年度以降の活動として予定されている全国展開に向けてファンディング活動を行った。6月:総会における寄付呼びかけ、7月:あとおし2015の報告会における事業報告、10月:日本財団への助成申請書作成、12月:過去の寄付者へのお礼および再依頼などを行った。

② 会員満足度向上チーム

会員報「WAKUの内弁当 vol.5」を9月21日に発行した。

③ イベントチーム

- 6月11日総会開催当日第二部のイベントとして、6つのテーマに興味を持った会員が17年度の全国展開に向けて、熱い議論を行った。
- 3月21日「わくわく学生創出会議」を開催した。

④ 劇団

「チーム for 劇団AKP」の2年目は、わくわくエンジンが当たり前の社会に向けて、キーパーソン21の理念の浸透を目指して3回の公演を行った。脚本は古典をアレンジして創作。

6/11 第4回「浦島太郎」、1/11 第5回「大喜利」、1/13 第6回「金色夜叉」

⑤ IT 情報チーム

セールスフォースの活用のための枠組みの作成を行った。

⑥ WEB チーム

HP 更新の技術的サポートを行った。

⑦ 効果測定チーム

効果測定アンケート作成および、回収したアンケート内容に基づく、効果測定報告書を作成した。

- ・ 川崎市立川崎高等学校定時制向け、個別アクションプログラム(5月24日、31日)
- ・ 川崎市立川崎中学校向け、すきなものビンゴ&お仕事マップ(7月7日)

⑧ 大学生応援チーム

大学生支援に興味のある会員 9 名で学生会員 30 名のサポートを行った。

11月4日山村学園における高校生向け講演(大学生 17 名)、

3月21日東京都市大学コラボイベント「わくわく学生創出会議」における大人向け講演(大学生 8 名)に対して、自分の考えを語れる講演内容作成と運営サポートを行った。

⑨ 教員チーム

教員の困りごとを共有する場を作ろうと、教員や教員志望の学生と活動内容や進め方など検討した。

8月26日「未来の先生展のポスターセッションにエントリー-出展した。

⑩ チャリティカレッジチーム

18年度リスタートに向けて計画立案を行った。

⑪ 人事部チーム

8名で組成、ミーティングを3回開催。問題意識の共有、対外的/内部的に何をするか検討した。

⑫ 出版プロモーションチーム

代表朝山あつこの初の本「ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけ方」の出版プロモーションを行った。3月3日 Amazon ランキング 1 位(マネジメント・人材管理部門)を獲得した。